

私たちは病院に行くとき、保険証を持って出かけ、窓口で見せます。70歳未満の国民なら医療費の7割を保険料や税金で賄ってもらいます。残り3割は自己負担です。

かつて、老人医療費が無料だったことがありました。一見よさそうですが、そのつけは当時の若い世代に回っていました。高齢者の医療費はサラリーマンなどが保険料や税金で多めに支出することで賄われていたのです。しかし、老

## ニュースを読み解く

# やさしい経済学

## 第3章 社会保障の考え方

4

慶應義塾大学教授 土居 文朗

人医療費が増えすぎて財源が不足し、1983年にこの制度は廃止されました。

このように、給付が手厚すぎることで生じる問題もあります。リスクに直面しても自己負担なく保険給付が受けられます。リスクに直面しても自己負担なく保険給付が受けられるなら、回避する努力を怠る恐れがあります。これを「モラルハザード」といいます。

例えば、病気になつても医療費を払わないで済むなら、もしそれません。そうなると、医療のための保険給付が増えてしまい、ひいては保険料負担が重くなってしまいます。これを防ぐ方法として、利用者の自己負担があります。

「ただより高いモノはない」

## モラル守る自己負担

といいますが、経済学的には、無料にする悪い「インセンティブ（誘因）」が生じ、結果として全体が悪くなることを問題視しているのです。ゆえに、社会保障の財源は保険料と税だけでなく利用者負担も用いられています。

高齢者の医療費の窓口負担は、社会保障と税の一体改革でも争点となりました。法律では70～74歳の窓口負担は2割と定められていますが、負担の重さを考慮して「特例的

に」1割の負担に軽減されているのが現状です。その分、若い世代も負担する税金が毎年約2000億円投じられ穴埋めされています。軽減措置を廃止する案が出ましたが、選挙後に先送りされました。高齢者ほど1人当たり医療費は多くかかり、70歳代は40歳代に比べ約5倍、負担は約半分です。弱者の救済は必要ですが、負担を若い世代に求めすぎると、世代間格差が広がつてしまいかねません。